

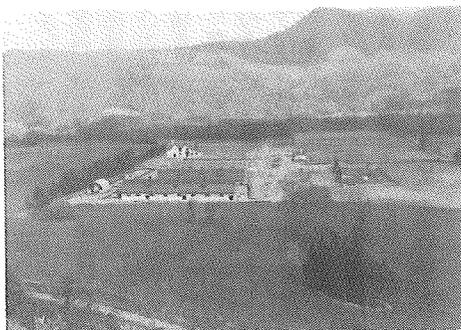
北海道桜野牧場の現況について

桜野牧場 佐々木 実

一、はじめに
 牧場建設五カ年目の最終年度を迎え、基地整備等を実施すると、全施設の事業が完成し、今年度から本格的な牧場経営となります。
 我々の使命は、酪農王国北海道と、牛主産地岡山県との、連けい拠点として、優良種畜と肥育素牛を安定的に県内に供給すると共に、本県特産の和牛を販売拡張することにあります。

二、位置及び自然条件
 (一) 位置
 北海道山越郡八雲町桜野
 太平洋に面した噴火湾沿いの八雲町野田生市街地から内陸(西南方)へ一四kmほど入った山間部にある。
 (二) 自然条件
 丘陵山岳地で標高一四〇〜二四〇mの間にある。夏は濃霧に伴う冷涼性気候、秋は晴天が多く、初雪はおおむね十一月上旬、終雪は四月上旬頃である。年平均気温八・三℃、年降雨量一、五六〇mm、積雪量二二〇〜一五〇cmとなっている。植生は、シラカバ、トドマツ、ナラ、ヤナギ、カシワ等の混交自然林で、下草は、クマガサが主体である。

(三) 地勢
 野田追川上流にあり比較的平坦な丘陵地で土質は火山灰土である。



三、主な施設

| | |
|------------|------------|
| (ア) 避難舎 | 九棟 五、九九一㎡ |
| (イ) 看視舎 | 三棟 三〇九㎡ |
| (ロ) 農具庫 | 三棟 三七五㎡ |
| (ハ) サイロ | 五基 一、四七一㎡ |
| (ニ) 貯溜槽 | 二基 一、九一〇㎡ |
| (ホ) 研修施設 | 一棟 三三七㎡ |
| (ヘ) 衛生施設 | 一棟 四五㎡ |
| (コ) 雑用水施設 | 貯水槽一基 四八六㎡ |
| (カ) 配管 | 三、四八六m |
| (キ) 牧欄 | 一三、四〇七m |
| (ク) 牧場用機械 | トラクター 五台 |
| | 運搬車 四台 |
| (ケ) 放送通信施設 | 作業機械 一式 |
| | 一式 |

九月号目次

北海道桜野牧場の現況について 佐々木 実……………1

「文献紹介」
 母牛の泌乳に影響を与える
 交配種雄牛 小澤清一郎……………4

酪農雑感
 九牛の一毛 三宅 律太……………6

私の発言
 奈義町 水島 長……………7

趣味「囲碁十訣」
 経済連養鶏課長 岡本 勉……………8

経営紹介
 ① 伍協牧場・勝英普及所……………10

② 邑久郡牛窓町小橋修一さん
 畜産会……………13

③ 八束・犬狹生乳生産組合
 真庭普及所……………14

中央会・経済連だより……………16

あなたの家畜をハエ・蚊から守る

新製品

動物用

NZK

日本全薬工業株式会社

郡山市安積町笹川字平の上1-1

(有)美津和薬品商会

本社 〒708 津山市井ノ口25 卸売センター内
 TEL (08682) 2-7 0 1 4

ヤシマフタスロン

有効成分

〈製品100g中〉 フタルスリン(ネオピナミン)……………2.0g
 レスメトリン(クリスロン)……………0.4g

適用害虫

ハエ・蚊・ゴキブリ(油虫)の駆除

特長

- 抵抗性害虫にもすばやいききめ。
 - 人畜に対して高い安全性。
 - 畜産物を汚さない——残留・蓄積の心配がない——
- 従来のピレスロイド系殺虫剤を更に改良しました。
 ——2種類のピレスロイドを配合した製剤です※——
- 速効的なノックダウン作用に加え致死効果の点でも安定した殺虫剤です。
 - 残効性も期待できます。

(※参考)

レスメトリン(クリスロン)は従来の合成ピレスロイドと比べて、致死効果を更に高め、化学的にも安定で残留効果も期待できる新合成ピレスロイドです。ヤシマフタスロンは、この成分の配合により、さらに確かな効果が期待できるピレスロイド系動物用殺虫剤としました。

おすすめします!!今日からの殺虫剤

ピレスロイド系動物用 **ヤシマフタスロン**



[ゼンヤクの固型塩グループ]

〈一般用〉 〈グラステタニー様疾患予防用〉

グリーン錠塩

錠塩エム

〈肥育牛の尿結石症予防用〉

固型 **カウストン**

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤

バイミルク

四、経営内容

昭和五十五年度の経営内容は次のとおり

- (一) 和牛子牛の販売
繁殖雌牛一〇八頭による子牛生産七四頭を行い、七〇頭を販売する計画。
- (二) 優良乳用雌牛の販売
能力的に優秀な乳用雌牛(八カ月齢)六〇頭を導入し、約一六カ月間育成後、初妊牛として、県内農家へ販売する。本年は七七頭を計画している。
- (三) 乳用雄子牛の販売
乳用雄子牛一、〇五〇頭を導入し、約六カ月育成後、肥育素牛として、県内農家へ販売する。本年は一、〇〇〇頭を計画している。
- (四) 乾草幹旋
北海道で生産された良質な乾草を県内の関係団体へ幹旋する。
- (五) 現地研修
畜産技術者及び大規模経営を志向する県内農業後継者等の技術研修を行なう。

五、経営管理

長い厳しい北国の冬も過ぎ、雪どけと共に、あたり一面は緑と化し、全ての草木は、急速にその色を濃くし、一段と活気を帯びて来る。この時期から牧場は忙しくなる。
広大な草地を、赤いトラクターが音も



かるやかに走り、肥料散布が行なわれる。一方では、デントコーンの播種とか、放牧準備を忙しく行う。
やがて、待ちに待っていた牛どもが、広い牧場に二〇〇三〇頭毎で群がって行く。採草地では、一番草の刈り取りが始まる。大型トラクター二台のペアで一台は刈り取り吹き上げ、一台は積み込み運搬して、銀色に輝くスチール製気密サイロに詰め込まれて行く。この光景は、牧場にしか見られないすばらしいものである。又、乾草の取り入れともなると、赤い大型トラクター四台が、エンジンの音もけたたましく忙しく走り廻り、刈取、反転、集草、梱包の一連した作業を行なう。梱包した乾草を、九棟の牛舎に運ぶ作業が、

(A)

表1. 用地面積

| 造 | 草 地 | | | 飼 料 畑 | 合 計 | 敷 地 | 自 林 地 | 然 等 | 総 計 |
|------|-----|-----|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| | 成 | 粗 | 耕 | | | | | | |
| 90.3 | | 8.0 | 98.3 | 8.4 | 106.7 | 2.05 | | 36.95 | 145.7 |

表2. 家畜飼養頭数

(55.8.1現在)

| 種 別 | 肉 用 牛 | | | 乳 用 雌 牛 (肥育素牛) | 乳 用 雄 牛 (肥育素牛) | 合 計 |
|-----|-------|-----|-------|----------------|----------------|-----|
| | 成 雌 牛 | 子 牛 | 育 成 牛 | | | |
| 頭 数 | 108 | 29 | 137 | 84 | 544 | 765 |

表3. 常時家畜飼養頭数

(57年度目標)

| 種 別 | 肉 用 牛 | | | 乳 用 雌 牛 (肥育素牛) | 乳 用 雄 牛 (肥育素牛) | 合 計 |
|-----|-------|-----|-------|----------------|----------------|-----|
| | 成 雌 牛 | 子 牛 | 育 成 牛 | | | |
| 頭 数 | 150 | 120 | 20 | 20 | 500 | 930 |

北海道桜野牧場配置図

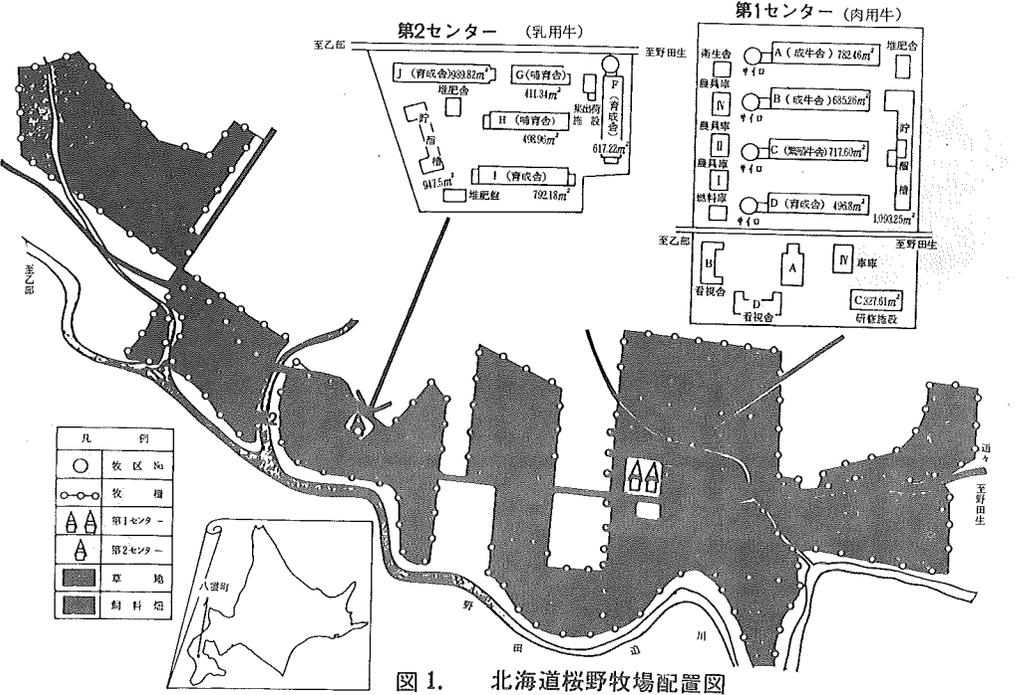


図1. 北海道桜野牧場配置図

一番の大仕事で、運搬には、四トトラック、二トトラック等、運搬可能な車が、きれいに刈り取られた草地に勢揃いする。こうして短い夏の間を精一ぱい働き、やがて来る冬の飼料として、サイレージ、乾草の取り入れが行なわれる。

今年は異常気象で、気温が低く、ぐずついたり続いたため、天気が悪い時は、グラスサイレージに、良い時は乾草にと振り分けて行ったため、雨にぬらすことなく、良質な一番草の乾草を収穫することが出来た。

九月上旬から二番草の取入れ、一〇月下旬はデントコーンの収穫そして、終牧と作業は続く。

乾草の取り入れ等で多忙な日が続いた後などや疲労しており、時には、近くの草地にござなど敷き、炭火を囲んで焼肉を食べながら、サッポロ生ビールを飲む。疲れも忘れて、何んとも言えない良い気持ちとなる。思わずオイシーと溜め息が出る。日頃疲れた顔にも、炭火の明りから笑顔が見える。夜の更けるのも忘れて、郷里の話とか、得意の歌が続く。

建設工事も、九月末を完成として、急ピッチで進められている。今年度の主な工事は、草地造成九・一ha、貯溜槽一三五㎡、ポンプ室一七・三㎡、圧送管路八八八m、追込柵二カ所、パドック整備二・五ha、放送通信施設、焼却施設、管理用機械三台、等となっており、すでに七〇%は出来あがっている。北海道は降雪

が早いので、殆んど夏期工事に集中している。

六、職 員

- (一) 県出向職員 三名
- (二) 公社職員 四名
- 岡山県出身 一名
- 八雲町出身 二名
- 岩手県出身 一名
- (三) 臨時職員 一名
- 八雲町出身 一名
- 計 八名

四) 研修生

研修生の内、女性一名は、今年一月から入場し、乳雄子牛の哺育管理を専門に行っている。埼玉県の出身で、非常に熱心に勉強しており、将来は、牧場経営を志しており、酪農家に嫁ぎたい希望。夏休みになって、千葉県出身の鈴木君が研修生として牧場にやって来た。彼は日本大学農獣医学部三年生で、非常なフアイトマンである。毎年北海道の牧場で研修しているとの事、仕事の内容は良く存している。次に横浜出身の林君がやって来た。彼は神奈川大学工学部三年生で牧場が好きであるが、将来は、エンジニヤを志している。八月に入って、岡山県笠岡市出身の木山君が来た。彼は、金光学園高等科一年生で将来は、獣医師を志している。

七、おわりに

今年の夏は、研修生も含めて、総員二名となり、放牧監視、乳雄子牛の哺育管理、サイレージの詰込、乾草の取入れ等、仕事も順調に進んでおり、高さ一〇m、直径八mのサイロ五基の内、すでに三基にグラスサイレージを詰込み、残る二基は、一〇月にデントコーンを詰込む。乾草は、約一〇、〇〇〇個を、各牛舎の二階に取り入れた。今後、二番草の乾草約三、〇〇〇個を計画している。牛の導入及び販売も、計画頭数に近づけるよう努力している。

最近では牧場の見学者も多く、北海道を始め、岡山県内外から、沢山の人が来られる。これからは特に、岡山県の農業後継者の方々が、研修の場として、広く活用して戴く事を、希望している。
当牧場も、各関係者の御協力により、ここまで成長して参りました。今後は、更に両道県を持ち味を生かして、一日も早く、拠点としての機能を十分發揮出来るよう心がけ職員一同、努力して、参りたいと思っております。つきましては、今後とも関係機関の方々の、一層の御指導を、心からお願ひ申し上げます。

母牛の泌乳に影響を与える交配種雄牛

酪農試験場 小澤 清一郎

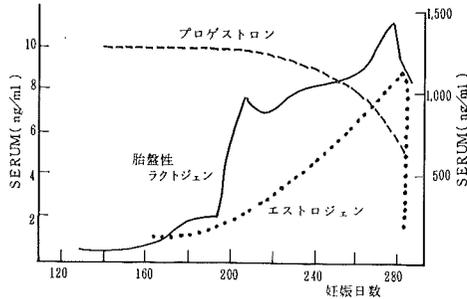


図1. 妊娠中のホルモンの動き

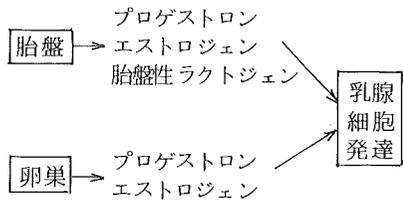


図2. 乳房を発達させるホルモンの働き

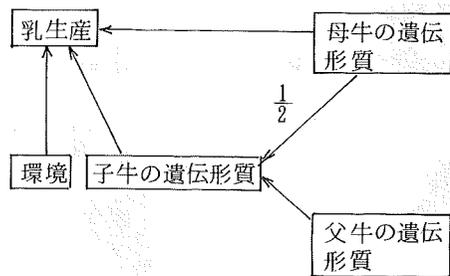


図3. 母牛の乳生産に影響する遺伝形質と環境

プロラクチン「下垂体から分泌される催乳ホルモンで分娩するとこのホルモンの働きによって泌乳がおこる」に感受性をもっている乳房の部位「乳の生産活動をする乳腺細胞など」を活性化することである。

図一は妊娠期間中の三つのホルモンの血清中の濃度を示したものである。この三つのホルモンは調和して乳房がもっともよく発達するように働いている。(一)妊娠期間によってこの三つのホルモンの量と濃度は変化する。その上前述のように、血清中の胎盤性ラクトジェンは乳牛と肉牛とではっきり差がある。また胎盤性ラクトジェンの高い濃度の牛は、次の乳期の乳量が多いといえる。このこ

とからいえることは、
一、胎児の出す乳房を発達させるホルモンは、母牛の泌乳能力に影響する。
二、胎児により多くのホルモンを分泌させるために品種を選ぶことは重要なことである。(交配する父牛の品種)
(三)母牛の泌乳性に対する胎児と交配父牛の影響

胎児の母牛への生理的影響は古くから認められており、一九三三年にワシントン州立大学では、胎児の性別と胎児の父牛品種が妊娠期間に影響することを報告している。また、ミシガン州立大学では、ラットを妊娠二日と一六日に胎児胎盤を除去することで、妊娠していない状態への乳房の退行が起ると報告している。

胎児の遺伝子型は両親から半分づつ受けつづものであるから、雄の遺伝構造は

その相手の雌の泌乳に影響することが考えられる。
母牛の乳房を発達させるには胎児胎盤性ラクトジェンが必要であり、これは胎児の遺伝的要因と胎内の環境とに影響されるものである。母牛の泌乳能力は、遺伝形質と環境(この中には胎児の影響も含まれる)によって決まる。(一三)

母牛への胎児の影響や、その父親の影響を直接知ることはできないが、品種の平均と、ある種雄牛を受胎した雌牛の平均との差により間接的に推定できる。これは、乳牛の種雄牛の能力検定に似ているが、今回は母牛が、その胎児の父牛により比較された。胎児がどのように影響したかは、品種の平均からの偏差として測られ、母牛の泌乳量と父牛の遺伝形質の間の相関として表わされた。

ノールウエーのSkierboldとFinland(一九七五)は、一九七一〜一九七四年の間六九、五〇頭の初産牛について、毎年三四九〜四五九頭の種雄牛を対象として、胎児の父親による影響について調査した。調査項目は、乳量と一日当たり最高乳量であった。乳量については、変動の八〜一三%、一日当たり最高乳量については変動の七〜九%が胎児の父牛の影響とされた。

フロリダ大学のAtkinsonら(一九七七)は、一九六八〜一九七五年の間の四、五二頭の乳牛のホルスタインとジャージーの生涯乳量九四五、六五〇頭分から、乳量・乳脂肪量について考察し、胎児の父牛の影響は、ホルスタインでは、成年型換算乳量で全変動の八・二%の影響があり、乳脂肪については九・八%の影響があったと報告している。

胎児の父牛の影響は、母牛の泌乳能力に対して、
一、ホルモンの生産については胎児間でも父牛の間にも遺伝的な変動がある。
二、父牛は、泌乳や乳脂肪生産に影響する。

ノールウエーとフロリダの研究は、父牛が母牛の分娩後の乳期に大きな影響を与えることを示している。胎児の影響力は、父牛の群間の変動から見ても遺伝的なものであると思われる。
一九七八・九・一五
Hoeds Dairyman 749

一、はじめに

交配種雄牛の選定が重要なことはよく論じられており、よい後継牛を得るために種雄牛の選定には心を配っているところでありますが、この選定が実は交配種牛のその産次の泌乳にも影響を及ぼすとする「Lindsay, Norman」の報告に接し興味を持ちました。この報告は「一九七八・九・二九のHoeds Dairyman」に論述されたものですが、その内容から、私見を述べてみますと、従来の血統を維持し、子牛への遺伝のみを考えるという種雄牛ではなく、交配相手としての母牛自身の泌乳性にも影響を与えるであろうという考えの上に立った種雄牛の選定が必要ではないかと思えます。例えば、最近かなり行われている乳牛に肉牛の雄を交配することは、その産次の泌乳性を低下させる可能性があるということ、このようなことはできる限り避けた方がよいのではないかとも思われますが、いかがなものでしょうか、語学力の不足から直訳的で難解な部分もあると思いますが、以下の報告の概要を紹介します。

二、報告の概要

「注：」内は訳者の注
解である」

「交配相手としての種雄牛」Lindsay
「乳腺組織の発達と泌乳性」Norman
泌乳に関係する因子は色々あるが、そ

の中の二つに乳房中の乳腺細胞の量がある。この乳腺細胞(特に)妊娠の後期によく発達する。また、胎児胎盤はその分泌するホルモンにより、妊娠後期に乳房を発達させるといわれている。

乳腺組織のほとんどは妊娠中に発達する。しかし、初妊牛では受胎時にすでに乳腺組織がわずかながら発達している。これはそれまでの性周期の回数により程度には差があるが、主に乳管が発達しているのである。そして受胎後乳頭が少し長くなり乳管は分岐する。(年は生後約十カ月たつと性成熟期に入り、性に関するホルモンの影響をうけて、乳房には脂肪が蓄積し始める。その後発情周期を反復するたびに、次第に乳頭の付け根の部分から、この脂肪組織の中に向けて乳腺管が木の枝のような形にのびていく。)

乳生産を行う最小組織である乳腺細胞は受胎すると脂肪組織から変化して、乳腺細胞が集まって乳腺小葉になり、妊娠泌乳、乾乳の各段階で変化している。泌乳能力は分娩前二〜三月まで大きくなってしまい、この發育パターンは、各泌乳期毎にはつきりしており、乳腺細胞は泌乳減少期に退化し、乾乳期(妊娠末期)に再生される。

ミシガン大学(一九六九)のラットを用いての報告でも、他の哺乳動物と同様に妊娠後半期に乳腺細胞が発達し乳腺実質が増加し、この乳腺細胞と泌乳能力の間には高い正の相関があるとしている。

すなわち乳腺細胞が少なければ泌乳量も少ないということである。

(二)乳腺細胞の発達に対する胎盤の影響

乳牛の胎盤は、乳腺細胞の発達も含めて、妊娠中に起る乳房の変化に影響するホルモンを分泌する働きがある。胎盤の抽出物と血清から、プロゲステロン、エストロジェン、胎盤性ラクトジェンの三種のホルモンが分離されている。

プロゲステロンは、胎盤では極く少なく、主に卵巣で造られる。エストロジェンは、胎児胎盤で造られ、受胎後一六〇日以降に増加してくる。また、プロゲステロンとエストロジェンは、乳腺細胞と乳管の発達を高めるのに必要である。胎盤性ラクトジェンは、特に胎盤で造られるが、分娩前の乳房の発達にもっとも関係するホルモンであり、一九〇五年には、乳房の発達に影響する物質として胎盤分泌物から分離されていた。

北カロライナ州立大学は、胎盤性ラクトジェンを乳牛及び肉牛の牛乳と羊膜水から分離した。この分離したラクトジェンは、乳牛が肉牛よりはるかに高い値を示し、しかも乳牛・肉牛とも妊娠前期は低いレベルであったが、妊娠一六〇〜二二〇日にかけて急速に増量した。これは乳腺細胞のもっとも良く発達する時期と一致する。

胎盤性ラクトジェンの基本的な作用は、泌乳を開始し維持させるホルモンである

九牛の一毛

酪農試験場

三宅律太

九頭の牛の一本の毛の意から、多数の中の一つの部分、転じて、とるにたらないのとたとえとされているが、酪農技術に関しては、この九牛の一毛を軽んずることが経営の破壊につながるのではないかと私は考えている。

酪農は、牛を愛し、土を作り、草を採ることから始まることは、皆良く知っていることである。世が変わり、人が変わっても、基本理念に変わりがあるはずは無い。そこに経済があり、人々の生活があるために、時としてこの基本理念を曲げなければならぬことはあるだろうが、それはそれなりに問題点を十分理解して取り組まなければならないと思う。濃厚飼料が安くなれば草作りを休み、高くなれば水田転作の対応策などと云って、飼料作物作りを考えるなども時の流れといえればそれまでだが、これとて基本理念を考えて見れば新しいことではなく、物の道理として技術の範囲で対応できることが多い。「無理が通れば、道理がひっこむ」と云う言葉もあるが、正にそのとおりで、無理したことは必ず後で禍根を残すことになるであろう。私は、酪農が本

当に地についた日本の農業として将来とも発展して行くためには、今一度原点に帰って酪農技術を見なおし、地域の中で愉快に生産のできる酪農であってほしいと思っている。

牛飼いの技術は、単純に見えるが実に多くの問題を抱えている。それが九牛の一毛から始まっていることを再確認することこそ必要である。子牛を生ませるための父親選びから、種付け、繁殖、子牛のほ育苗成、母牛の搾乳、乾乳、その間の飼養管理、衛生管理そして飼料生産から貯蔵利用、ふん尿の処理利用と、どの部分をとってみてもなおざりにできない技術である。新しい事情が生じた時こそ原点に帰って良く見極めて行動して行きたいものである。

私自身、常にそのことを頭において行かねばと思う今日この頃である。駄文を労し眼を汚したことをおわびします。

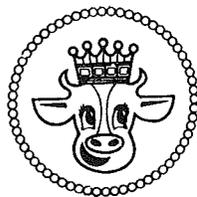
酪は全サ エサは国産 乳

団結は力！
系統利用は団結の象徴

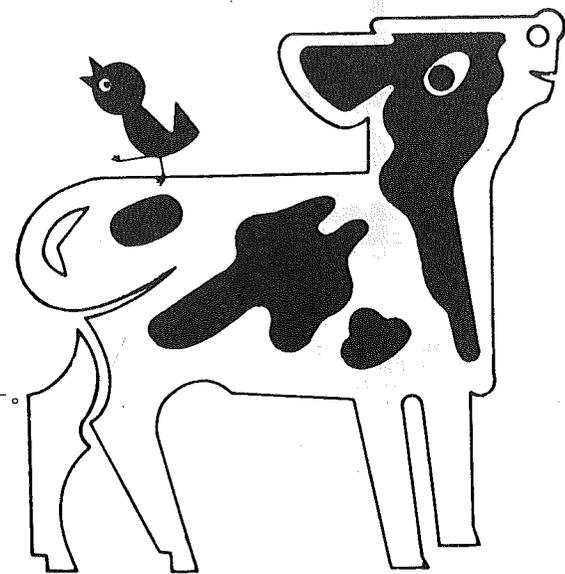
最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

- 専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
- カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
- 幼牛用、搾乳用配合飼料。
- その他酪農用飼料資材全般。
- 市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！
全国酪農業協同組合連合会



私の発言

此の頃思う事

勝田郡奈義町 水島 長

私の記憶では、昭和三十年代初期に「農業の曲がり角」という言葉が使われ、昭和三十六年頃、農業基本法が制定された。以後、土地の基盤整備、その他、諸々の補助事業がなされ、一方、行政指導でも農業の大型化、專業化、近代化等、

いろいろ魅力的な言葉が使われ、重労働で収益性の低い農業の中であえいできた農業者に、又、若者の耳に、農業がこと新しい事業の様な感じで迎えられる。

しかし、これも時がたつにつれて言葉も消え、単なる流行語に過ぎない存在になつたが、今、一〇年、又、二〇年前の農業の姿と比較してみると、機械化による労力の節減、規模拡大による大型農家が得意など、当初予想もしていなかった、農家（農村を含め）は大きく変貌した。

現在、安定成長時代になつたといわれているが、高度成長時代の考えが残っているのか、無謀な経営の農家を見かけることがある。今後は高度成長時代に忘れ

られていた事、考えられていなかった事を反省して、今後の農業に取り組むべきではなからうか。

農業者の一人として、次の点に留意すべきだと思う。

農業は厳しいといわれているが、厳しいのは農業だけでなく、他産業においても同じ事がいえると思うが、それなりの企業努力がなされ、成果をあげているのだと思う。

資本主義の社会においては、生産過剰という問題は、常に考えて取り組まなければならない問題である。

農業の場合は、さらにこれに加えて、自然がもたらす災害に、災いされることがあり、労働の割に、低所得だと敬遠されている。

しかし、眼を開いて周囲を見廻す時、農業に自信と誇りを持った立派な農家もかなり見られる。そのような農家を見て思うのは、農業は所得が低いといわれる

が、場合によっては、所得が低いのではなく、農業者の智能が低いのではないかと疑問を抱くことさえある。

昔からの農業という域に留まるのなら、従来どおりのカンとコツの繰り返しで、農業を営むことができるが、企業的に、專業農家として取り組もうとするならば、氾濫する情報化社会の中で、物事を正しく判断し、又、多様化の時代にあつては、自主選択する能力を身につける努力が必要だと思う。ある経営者の言では、仕事をやるうえで必要なのは、専門技術が二五%、あとの七五%は森羅万象を知る事だ、ときいたことがある。農業という一つの殻にとじこもらず、幅広く農業以外の人も交際することにより、物の見方も広くなると思う。

日本農業の根底を流れるものは、補助金行政で、価格補償、その他の諸々の補助で、農業者の依存心が、まだそこから抜け切っていないのが現状である。しかし、企業農家として生き抜くためには理論や口先だけでは農業はできないので、大地に腰をおろし、理論を裏づける現実の成果をあげなければ、収益はあがらない。その為には、立地条件に逆わず、自然をうまく利用した農業に取り組み、その中で生じた問題点を、農業者だけで解決できない事は農政に要望するだけの自主性がなければ、真の農業振興は望めない。

い。上から下への農政が、下から上への農政に変わりつつあるが、早く、農業者が自覚するべきだと思う。

高度成長時代は、農業に良い面も残したが、反面、心の豊かさが失われかけてきたような気がする。

私は、農業とは、幼い、弱い生物を愛し、育て、それに自然の恵みを受けて収益をあげるもので、それには、人間の愛情の度合いによって収益が異なる職業だと思っている。

酪農で例をとってみても、急速な規模拡大は利潤追求に走るあまり、土地から離脱して、家畜を痛めつけ、牛が外に出るのは死んだ時か肉屋に行く時だけで、鎖に繋がればなしで、乳を出す機械のごとく乳牛を扱っている。こういう意味で、果して後継者が喜んで後を継いでくれるだろうか。

今後のことはどうなるか。断言できる人はいないだろうが、予想もできない事が起るのは確実なので、それに対処する為には、農業は多くの生産をあげることが目的にするのではなく、地道に、背伸びをせず、自己能力に応じて経営を推進していきたいと思う。



私の趣味

「囲碁十訣」

経済連養鶏課長

岡本 勉

無趣味は、モウロクのもと、ともいう。この本を読む老・壮・青年の男女諸君、モウロクしたくなかったら囲碁をやりましょう。

碁は、男がやって品があり、女性がつて優雅である。(女房をもらうなら小川誠子がよかった。そうしたらワシも強くなっていたらなあ。) まったく男女平等なのである。若い男女の対局はさわやかで、老いた男女同士の対局もまた、ほほえましくあたたかい。男女交際の場として、こんなに清潔で親しみのあるものは、ほかにあるまい。その上、年齢がない。ちなみに関西棋院の総師橋本宇太郎九段は明治四十年生れの七十三歳で名人戦の現役である。また、日本棋院理事長、坂田栄男九段は、名人戦リーグの現役であることはもちろん、自分の年齢と同じ六十一個目のタイトルを今年とったばかりである。(若い人に何目も置いて、はづかしい等、考えていては強くなれませんぞ。人生八十年、まだまだである。)

さて、私の「囲碁十訣」考とまいる。

一、「貪すれば勝ちを得ず」

私は慎重に二、三目勝つよりも、相手の弱味につけ込んで徹底的に生死をかけて打つことにしている。日常生活では通用しないので、せめて盤上だけでも!

二、「界に入りては、よろしく緩なるべし」

敵陣に入れば石が重かるうが、ノコギリのようであるうが生きて帰らなくちゃあ勝てない。

三、「彼を攻めるには我を顧みよ」

統後を憂えては敵を攻める鋒先がにぶる。専心攻めたるにしくはない。逆転されても冒険が本望である。

四、「子を捨てて先を争う」

石を敵にとられると地が倍違う。シチヨウ以外の身内の石は、できるだけ大切に心構えで臨んでいる。

五、「小を捨てて大につく」

小数意見も大事にしなければなりません。小があるから大があるので。

六、「危つきにあればすべからく棄つべし」

四と同じだ。保身のために身内のものを

をトカゲのしっぽのように切り捨てるような去当は私にはできない。

七、「慎しみて軽速なかれ」

昼休みに打つことがほとんどであるから、とてもダメだ。鈍速では一時からの仕事に間に合わない。

八、「動かば、すべからく相応すべし」

オト碁はいけないと先輩から強く教えられた。これからもそれを守っていくつもりだ。

九、「彼強ければ自ら保つ」

こういう考えでは碁は伸びない。戦わずして敗けた。敵の陣が厚ければ厚いほど、あえて私は征く。

十、「勢、孤なれば和をとる」

孤立した友を見殺しにして、他方で代償を、という高等戦術は私にはできない。孤立した友も断固救出する。たとえ、その救出作戦の成否が敗けにつながっても。

以上、多分に、あまのじゃくな批判にすぎたかもしれないが、せめて盤上でも日常生活ではできない無理を通して道理をひっ込ませることや、極悪非道ぶりを発揮したいものである。

町を区域とした肉用牛 地域一貫経営の一事例

(島根県・赤来町)

去る八月二七日に、島根県の東南部、中国山脈の背稜地に位置する。赤来町の肉用牛振興について視察したので概要を報告します。

赤来町の肉用牛は現在、一〇五〇頭が飼育され、粗生産額において二九・五%を占め、米に次ぐ重要作目です。昭和六十年を目標に、町と農協が一体となって肉用牛振興を最重点に取り上げ、飼育頭数を二、〇〇〇頭に増し、粗生産額において第一位の四三・一%の達成に向けて第一歩を踏み出していた。

具体的な方法としては、肉用牛生産振興地域の指定を受け、昭和四十九年から肉用牛生産団地育成事業、昭和五十二年から、畜産団地整備育成事業に取り組み、繁殖経営の規模拡大と改良、及び、生産から肥育に亘る地域一貫経営を進めていた。即ち、現在一〇九頭の飼育農家三二六戸、一〇頭以上の農家六戸のうち、一〇頭以上の飼育農家の増加を推進し、他作目との複合による経営の安定に努めている。一方、農協同組合が直営で肥育施設を整備し、常時二〇〇頭を飼育し、毎月約一五頭の素牛導入と、肉牛出荷をしており、合わせて肥育技術の確立をは

かり、その技術で肥育農家を育成し将来は、町肉生産の雄子牛は全頭肥育する町ぐるみ一貫経営を計画している。

更に、町単独補助事業として、優良雌牛保留奨励事業を進めておりこれは特別保留牛に対し、五万円を五カ年継続して補助するものと、優良基礎保留年に対し、三万円を単年度補助している。又、老人畜産特別対策事業は、六五才以上の肉用牛飼育希望者に雌牛を貸付し、改良と増頭力を入れていた。粗飼料確保では、水田利用再編対策事業の外、九haの草地造成を計画している。

農協経営の肥育センターは、昭和五十年年度から、昭和五十四年度に亘って、総事業費一、二八、一四〇千円(土地を除く)で、二〇〇頭飼育の牛舎と、七五haの草地造成及び、機械器具を整備し、昭和五十二年年度から肥育が開始されている。

目的の一は、肥育事業によるメリットを生産農家へ還元すること、そのため肥育素牛は総て、町内で生産した子牛を雲南畜産市場において購入し、買い支えによる子牛価格の引上げを行なっている。第二は、繁殖牛の改良を進めること。肥育センターに導入する素牛の父牛は、赤

来町畜種組合の指定交配の種雄牛であり、母牛は、五代前までの血統を調査し優れた牛の中から選定して、二六カ月令まで肥育して出荷している。そして、枝肉の品質検査を行ない、良い系統の保留、悪い系統の淘汰に活用していた。第三は、大阪に定期元量出荷を行ない、赤来町肉

コンサル会便り

サイレージ用トウモロコシの収穫

コンサル会の行事の一つである、サイレージ用トウモロコシのコンハーベスターによる刈取を、長船町で八月二五日、北房町、九月六日、八束村九月一日、県普及園芸課、地元関係者(小六・タカキタ農機、スター農機、雪印種苗)の方々の協力を得て実施しました。

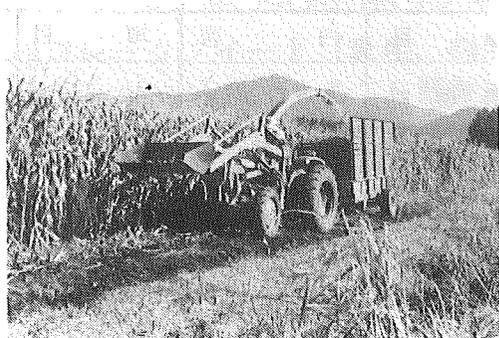
今夏は特に八月の長雨と低温、日照不足等のため、作物全体が悪影響を受けており、また収穫作業が雨のため延び延びになったので、トウモロコシ播種時点での期待は裏切られてしまいました。

長船町、北房町、八束村での試験成績のまとめは、総合検討会で検討しますが、特にトウモロコシの作付が伸びている森山地域でも検討会を開催する予定です。

津山市・池田 寛さん

農林水産大臣賞受賞

第一九回農林水産参加肉用牛経営コンクールにおいて、津山市林田・池田寛



さん(別)は、全国から選りすぐった肉用牛優良経営の中でも、特にすぐれた経営であることを認められ、みごと農林水産大臣賞を受賞されました。

牛の健康、緑の牧草は
タンカル で良い草を!

効めの早い タンカル肥料
持続性のある 土改1号, 2号



足立石灰工業株式会社

岡山県新見市足立 TEL (08679) 5-7111

| 年 度 | 経 営 成 果 (内容) | 年 度 | 経 営 成 果 (内容) |
|----------|-------------------------------------|----------|---|
| 昭和47年 1月 | 個人でそれぞれ経営をし規模拡大畜産公害で悩む | 昭和51年 3月 | 400頭飼育開始 |
| 昭和47年 7月 | ○第2次構の話が始まる。 ○5人で畜産公害のない牧場経営意気投合 | 昭和51年11月 | 第2次構により機械の導入 ハーベスターシヨベルローダー 畜舎内衛生管理施設 |
| 昭和48年 1月 | ○農事組合法人伍協牧場誕生 | 昭和52年 1月 | ◎牧場経営後継者第2号誕生 |
| 昭和49年 3月 | ○工事完成し牛の導入開始 | 昭和52年 6月 | ○宮崎県視察研修により醸酵飼料を見て導入開始 |
| 昭和49年 6月 | ○畜舎能力300頭導入終了 ◎牧場経営後継者第1号誕生 | 昭和53年 7月 | ○堆肥舎増築 363㎡ |
| 昭和50年11月 | ○畜舎増築(古材)約1,000㎡の100頭牛舎 | 昭和54年 3月 | ○ワラ倉庫新築 315㎡ |
| | | 昭和55年 1月 | ○ヘレフォード導入 80頭 (オーストラリア) |
| | | 昭和55年 3月 | ○肉用牛集約生産地育成事業により堆肥舎600㎡屋外パドックシヨベルローダー導入 |

肉用牛経営改善に 意欲的に取り組む伍協牧場

勝英農業改良普及所

一、地域の概要

奈義町は、岡山県の最北部に位置し、那岐山の南側一帯に開けている。標高二〇〇米〜三〇〇米の概ね平坦地に農用地が広がり、気象は年平均気温十三〜十四℃、年降水量一、八八〇ミリ、降霜期間も約六ヶ月位ある。農家戸数一、八八戸の内、専業農家一〇二戸、兼業農家一〇八戸で、専業農家が年々減少している。耕地面積は水田八三〇ヘクタール、畑九七・五ヘクタールで、水田依存型農業地域である。奈義町では農業気象条件で忘れてはいけない局地風(広戸風)がある。これは那岐山頂上から吹きおろす、風速四〇〜五〇米の暴風雨であり、農業立地上阻害要因となっている。水稲、野菜、果樹、等の経営では自立農家も育たず、町では第一次構、第二次構で基幹作目に畜産を取り入れた。局地風に左右されることの少ない畜産は飛躍的に伸び、現在農業粗生産額構成比で見ると、昭和五〇年データで畜産が六一%を占めるまでに発展している。

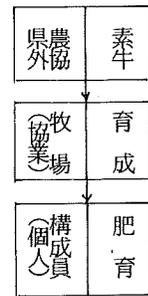
二、伍協牧場の概要と経営発展経過

当牧場は昭和四七年まで現在の構成員が個人個人で経営を行っていた。当時畜産においては規模拡大が盛んに叫ばれていたが、労働力的に個人個人では限界を感じていた。また畜産公害が一段とや

かましく言われ始めていた時代で、この解決方法として焼却方式が最良の方法とされ、個人で設置するには過剰投資となり、いかに投資を少なくし利益率を高めるか検討していた時期に、第二次構の話があり、農事組合法人伍協牧場を設立し、この悩みを一挙に解決することを決意し、牧場が誕生した。

三、協業経過の仕組

奈義町農協は哺育から育成を行ない、町内肥育農家に安く安定的に供給している。その大量供給先が伍協牧場で、牧場では、農協だけでは素牛が不足し広く県外からも導入している。体重二五〇kg〜三〇〇kgの素牛を導入し、牧場で四〇〇kg位まで育成し、構成員の飼育規模にあわせて構成員に払い下げ、仕上肥育を行ない、構成員それぞれの経営能力が発揮できる仕組である。牧場で育成した素牛は、構成員に、発育の良好なものから払い下げられるが、その余剰分は牧場自体でも肥育している。肥育の二重経営であるが、牧場の健全経営と払い下げ単価を安くし、構成員の経営利益率を高めるよう仕組んである。



四、経営改善のあらまし

(一) 構成員に働きがいを

協業経営発足当時から構成員全員が常に経営改善努力目標を話し合い、対話経営で進んできた。この対話経営の特徴は、第一に、協業経営自体が利益をあげ、構成員に給料で配分するのではなく、協業自体は利益をあげず収支トントンの経営を行なっていること、第二に、構成員は毎日協業経営に出勤するが、年間無給で働いていること(主婦は臨時雇で日当を支払う)。第三は牧場で生産する育成牛の生産原価を極力安く仕上げ、構成員に安く払い下げ、構成員の腕で利益率を高めるということである。

(二) 飼料費の軽減努力

肥育牛経営では、配合飼料に依存する割合が高く、省力管理面では効果的であるが、生産費は高つく。そこで当牧場では配合飼料をベースとして単味飼料を配合し、飼料費切り下げに努力してきたが、昭和五十二年に宮崎県に先進地視察研修を行なった際、構成員が醸酵飼料を見て、その魅力にとりつかれ、研究討議を重ねた結果、取り入れることに決定し、現在左記のような配合により生産している。

醸酵には好気性乳酸菌を使用し、夏期で二四時間、冬期四八時間醸酵させたものを給与している。給与結果、発育状況も極めて良好である。特に醸酵飼料給与

(1) 伍協牧場の現況

| 項 目 | 内 容 | 項 目 | 内 容 | 項 目 | 内 容 |
|---------|---------|-------|--------|---------|------------------------------|
| 構 成 員 | 4名 | 管 理 室 | 30㎡ | 機 械 | トラクター シヨベルローダー パキユムカー等 |
| 事 業 内 容 | 乳用雄牛肥育 | 堆 肥 舎 | 1,131㎡ | 飼 育 頭 数 | 400頭(内80頭 ヘレフォード) |
| 利 用 体 系 | 肥育部門協業 | 格 納 庫 | 121㎡ | | |
| 牛 舎 | 約3,500㎡ | 納 屋 | 315㎡ | | |

“あなたの畜産経営に奉仕します”

新発売飼料フレイクフィード(乳牛, 肉牛用)
配合飼料, コーンジャム(とうもろこし胚芽油粕), 脱脂大豆, 菜種粕

カトウ 加藤製油株式会社

大阪・岡山・名古屋・高松・下関

| | | | |
|-----------|------------------|-------|---------------------|
| 本 社 工 場 | 大阪市此花区梅町2丁目1番16号 | 〒 554 | 電話 大阪(06)462-0101 |
| 岡 山 工 場 | 玉野市築港5963 | 〒 706 | 電話 玉野(0863)31-2222 |
| 名 古 屋 工 場 | 名古屋港区港陽1丁目1番82号 | 〒 455 | 電話 名古屋(052)651-7411 |
| 高 松 工 場 | 高松市郷東町宇乾新開792-10 | 〒 760 | 電話 高松(0878)82-1888 |
| 下 関 営 業 所 | 下関市中之町10-3 | 〒 751 | 電話 下関(0832)22-8141 |

によるメリットの第一点は、配合飼料単価が安くなったことである。第二点は、肥育経営では秋の稲ワラ確保が次年度の経営を左右するとも言われるが、その稲ワラが約半分位節約できるということ、第三点は、醗酵飼料給与により畜舎内の悪臭が殆んど消え、乳酸醗酵のころより快適な臭いがし、畜産公害防止の一助になるということである。

三 堆きゅう肥処理

昭和四十八年協業設立当時は畜産公害が厳しく言われ始めたころで、多頭飼育では、土地還元ができず、焼却方式を取り入れていた。しかし時代の流れで昨今は土づくりが叫ばれ、多頭飼育農家にとって、良質堆きゅう肥を安く生産すれば処理

| 考 | 備 | オガクズ | ナイスコン末 | グルデフィード | ショール | トミツ | 大豆粕 | ペン麦 | ハイミート | 通皮 | 普麦 |
|-------------|----------------|-------|--------|---------|------|------|------|------|-------|------|------|
| 炭酸カルシウムを加える | 他にリン酸カルシウムを加える | 20.1% | 5.7% | 2.9% | 4.3% | 1.0% | 5.7% | 8.6% | 3.1% | 8.6% | 8.6% |

に困ることが少なくなっている。牧場も積極的に良質堆きゅう肥づくりにとりかかり、現在、堆肥舎も一三一tを所有し、オガクズ混合堆肥で六ヶ月間堆積醗酵させ、耕種農家との稲ワラ交換、果樹団地との契約と、あらゆる方法で地域農業者の土づくりに利用され、地域農業者とともに伸びる協業体となるべく努力している。

五、担い手育成と研修

協業経営設立は、構成員の意識統一が出来、協調精神に燃えて設立運営されているが、こと後継者問題を考えると、個人経営でも後継者不足に悩んでいる現在、協業経営の後継者となれば尚さら悩みの大きいのが一般的であろう。当牧場では、昭和四十九年には牧場初の後継者が誕生し、活気に満ち、翌年には畜舎を増築し四百頭飼育とした。牧場経営に積極的に取り組んでいる親の姿を学校に通いながら見ていた構成員の子供が、昭和五十二年に牧場経営に意欲を燃やして、後継者第二号として参画した。また今後の農業経営は高度の経営手腕が必要なので、現在構成員の子供が大学に進学し勉強中である。また後継者の先進地視察には、国内国外をとわず積極的に参加させ優れた担い手育成につとめている。

経営紹介

広い視野に立った酪農経営をめざして

邑久郡牛窓町 小橋修一さん

牛窓町は県の東南部に位置し、町の南部は瀬戸内海に面し、それに迫って小さな丘陵が複雑に続き、平坦地の乏しいところです。町の酪農の歴史は非常に古く、岡山の酪農の発祥地とも云えるところで、現在、約八〇戸が酪農経営に取り組んでいます。

小橋さんの牧場も、このような、瀬戸内海を見下す、丘の上であり、現在、乳牛五二頭(育成牛、肥育牛を含む)を飼育し、牛舎に隣接して一九〇aの飼料畑と約一ha離れたところに九〇aの飼料畑を経営しており、町内では恵まれた環境にあります。

修一さんは、中学時代から酪農家になるべく決めていたそうで、高松農業高校に進んだあと、これからの農業は、経済を勉強する必要があるというので、大学は経済学部に進みました。昭和五十二年に、大学を卒業後は、意欲的に酪農に取り組み、次のような目標計画を作りました。それは、搾乳牛四〇頭、育成牛二〇

頭を一人で管理し、七五〇万円の所得をあげるということでした。

計画をたててから三年、その間、酪農をとりまく情勢は厳しさを増してきましたが、それに対し修一さんは、「これからの酪農家は、もっと広い視野に立った酪農経営をとらなければいけない。例えば収入の面でも牛乳にだけ頼るのではなく、経営の中に肥育なども積極的に取り入れて、複数の収入源を求めざるべきではないか。」と、肥育にも積極的に取り組んでいます。

また、「このような時代だから、粗飼料の生産には力を入れたい。そうすることにより、生産費を軽減し、いわゆる足腰の強い経営をめざしたい。」とも語ります。

前にも述べた地形のため、牛窓地区の酪農家は、粗飼料の生産基盤に恵まれず、粗飼料といえば、青刈り飼料とイナワラ、それに残菜、そして各種の製造粕を複雑に組み合わせて牛に給与している例が比



較的多いのです。そのような中で、修一さんはホールクロップサイレージの通年給与体系を念頭において、トウモロコシ、秋作麦、イタリアンライグラスの輪作体系に、今、挑戦しています。

昭和五十六年には、基盤整備によって飼料畑も三五〇aとなる予定ですが、粗飼料の自給率を向上させるためには、さらに飼料畑の確保が必要です。現在の彼の借地面積はわずか三a、なかなか借してもらえないのが現状で、目下、彼の悩みの一つです。

もう一つの悩みは、乳牛の繁殖成績が今一歩、良くないということです。なんとか繁殖成績を良くして、乳量アップを計りたいと努力中です。

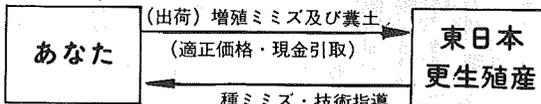
若者らしい柔軟な発想と、旺盛な研究心、そして行動力で、道を切りひらき、一日も早く、計画目標を達成し、さらに大きな目標に向かって進まれることを願っています。

(岡山県畜産会)



土地を有効に活かす。ミミズ養殖!

専属養殖者“募集” 貴方のご期待にお応えできる産業です。



まず1万匹からはじめてみませんか
改良新種 1万匹 80万円

- ◎4ヶ月で約6~10倍。1万匹が1年間で200倍以上に
- ◎土地は300㎡~500㎡でOK!!
- ◎減反問題でお悩みの方、土地を有休させてる方
出稼ぎ問題・過疎対策、高齢者対策として、
産業廃棄物処理・牛豚・馬鶏等家畜糞処理で
お困りの方、新しい事業としてお考えの方、
これらの問題を解決するミミズ養殖にチャレンジ
してみませんか。
- ◎当社は技術指導及び買取り保証の約定書を差上げております。

●当社のパイオニア技術で、ミミズの食品開発に成功/各分野から大きな注目を集め、近々、一斉発売の予定。
●当社の開発製品群 ●パーミーパウダー:ミミズの粉末。●パーミーフレック:ミミズの粉末をフレック状にしたもの。●パーミーベレット:ミミズの粉末を小さな固型にしたもの。●パーミーミンチ:ミミズをミンチ状にしたもの。●パーミーチューブ:ミンチ状にしたものをチューブにつめたもの。●パーミーモス:ミミズの糞土。●パーミーカップ:生きたミミズをカップにつめたもの。



資料ご請求の方は切手500円分同封の上、下記へお申し込み下さい。
東日本更生殖産(株)
四国支店 〒763 香川県丸亀市大手町(大手町ビル7F)
☎08772(4)1221(代)

本格派のジャージー酪農

八束村、犬狹生乳生産組合

真庭農業改良普及所

一、はじめに

雄大な下赤山の東の裾野を南北に走る国道三二一号線の鳥取県関ヶ原町境に本格的なジャージー酪農を目指す犬狹生乳生産組合がある。ちょうど国道を左右にはさまる形で三〇haの草地が広がっており、国道に接したところまでジャージー種乳牛がやってきては、道ゆく人々に牧歌的風景を奏しませてくれる。この牧場は、昭和四十九年六月、酪農新天地を求めていた地元の人々の若者（池田尚美君、入沢三郎君、長瀬義則君）が、村の酪農振興施策により、人里離れたこの地に経営移転し、自宅からの通勤方式によるジャージー牧場として誕生したものである。

二、経過

地元の八束村では、昭和四十七年、八束村東部地区第二次構造改善事業計画のひとつとして、犬狹地区に酪農団地の造成を計画していた。

また、この二次構と併行して犬狹地区を中心とした団体営草地開発事業が昭和四十七年より計画、実施体制に入っていた。ところが、この犬狹畜産団地造成は当初計画から、諸般の事情により村全域において酪農に熱意のある優秀な農業後継者を中心とした畜産団地づくりに計画変更を行ない事業推進を図った。その結果、酪農に熱意があり経営者としての素質もあり、経営基盤、資金事情等から一

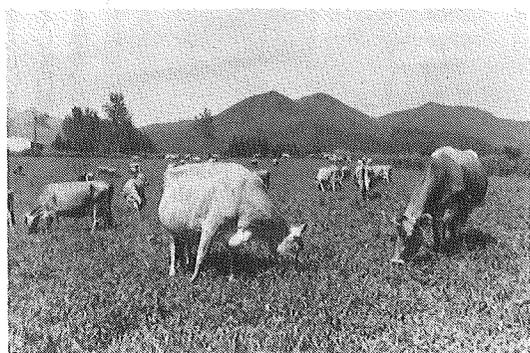
〇頭前後の規模で伸び悩んでいた三人の青年を誘って、酪農部門の経営移転による経営拡大を計画して犬狹生乳生産組合が結成されたのである。

三、組合の概況

この組合の経営概況は次表のとおりで、赤山のジャージー酪農を代表する典型的な経営体の一つである。

一、全頭ジャージー種による草地酪農
草地三〇haのうち二二haを放牧地、残りを採草地として利用し時間放牧による草地の効率的利用と省力生産に努めている。経産牛一頭当たり年間労働時間は、

| 乳牛 | 現在 | | 目標 | |
|-----|------------------------|-----------|-------------------------------|-------------------------------|
| | 頭数 | 乳量 | 粗飼料 | 草地 |
| 頭数 | 114頭 (成牛90頭、育成牛24頭) | 283,000kg | 現在 | 目標 |
| 乳量 | | | 30ha (放牧21ha、採草9ha) | 30ha (放牧21ha、採草9ha) |
| 粗飼料 | | | 3.5ha (混播2ha、コーン1.5ha) | 4.5ha (混播1.5ha、コーン3ha) |
| 草地 | | | 2.5ha(稲転) (混播2ha、コーン0.5ha) | 3.5ha(稲転) (混播1.5ha、コーン2ha) |
| 畑 | | | 36ha | 38ha |
| 田 | | | | |
| 計 | | | | |



九〇時間前後である。

二、大型農機具体系による高い飼料自給率
長い冬期に備え、草地のほかに、畑や水田転作田での大型機械体系による飼料増産に努めており、飼料自給率五〇%以上確保している。

三、ジャージー牛の改良と安定した産乳実績、長い耐用年数
ジャージー牛の改良に熱心に取組んでおり、乳量検定成績四、〇〇〇kg以上の基礎牛率は約六〇%と高い、一頭当たりの産乳成績は三棟の牛舎で若干の差はあるが、平均三・五tを確保している。また、繁殖成績は、平均一三カ月以内で分娩しており、産歴は一〇産クラスもあり、

平均六・七産の耐用年数である。

四、定置配管施設によるふん尿の草地還元
自然流下式牛舎のふん尿を昭和五十一年に設置した定置配管施設により、草地に還元し、牧草生産力を高めている。

四、おわりに

赤山地域の酪農も、酪農事情の変化にともない昭和四十八年頃からホルスタイン種が増加し、飼養方式も、草地オンリーから、転作田や畑で飼料増産し、それを主にサイレージ仕向けにする貯蔵飼料型の年間舎飼方式に変わってきている。しかし、この犬狹生乳生産組合のメンバーは、ジャージー種本来の特質を生かした飼養方式を実践し、ジャージー種による酪農実現に全精力を注いでいる。その経営成果は、経営診断や生産費調査結果から、一步一步前進のあとがうかがわれ、当地域ではトップレベルの生産性の高い実績数値である。乳価アップが当期期待できそうな酪農情勢の中でこの組合のような低コスト、高能率の経営方式はこれからの酪農経営の進むべき方向ではないだろうか。赤山の本格派ジャージー酪農のモデル経営体としてより一層の精進を大いに期待するものである。

真庭農業改良普及所

冷夏による青刈稲利用の留意点

岡山県酪農試験場

一、セントであった。

今年は何年にもない冷夏と長雨により、日照不足、過湿などで、農作物に種々の悪影響がでています。飼料作物も例外ではなく、適期に播種ができず、その上生育の停滞や雑草の侵入、病虫害の多発などで生産量が減少し、また、収穫期に天候不良で刈取り時期が遅れたり、台風による倒伏で機械作業が困難となり、飼料確保に大きな支障をきたしております。

このことは冬期間の貯蔵飼料の不足につながることであり、稲わら等を有効利用することが大切です。しかし、水稲作においても作況は不良であり、稲わらの十分な確保も難しいことが予想されます。そこで行政指導面でも、冷夏、長雨による不稔被害水稲の、粗飼料利用促進が計られておりますが、現場においても青刈稲の利用について、検討しておりますので、その利用に当たっての留意点を述べ、参考にさせていただきます。

一、青刈利用

(一)被害水稲の分析値は、日本標準飼料成分表に掲載されている飼料価値(DCP、N、P、K、Ca、Mg、Na、Cl、S、Fe、Cu、Zn、Mn、I、Se)と差はなかつた。(九月十三日、津山市で採材した六月十五日田植、稔実二分の一、及びほとんど稔実していないもの分析値に、日本標準飼料成分表の消化率を用いたDCPは二・一八パーセント、二・四二パーセントであり、TDNは二・三〇パーセント及び二・三九パーセント)

(一)サイレージ品質及びTDNから埋蔵時期は乳熱期から糊熱期が適当と考えられます。

(二)サイレージ利用
(一)現場における消化試験結果では、飼料価値はDCP〇・九パーセント、TDN七・七パーセント(水分含量八一パーセント)であったが条件によりかなり左右されることを考慮すること。

(二)青刈水稲に含まれるWSCの種類割合が特徴的であり、糖蜜又は濃厚飼料の添加は乳酸の割合が多くなり品質を向上させます。

(三)四切断は無切断に比較して発酵は速いが酢酸、酪酸の割合が多くなり品質的には劣る傾向があります。

(四)フリック法による低い評点のサイレージでありましたが家畜の嗜好性もよく、尿ケトン体の出現も認められませんでした。

(五)日量四五キロ程度の給与が可能と考えられます。(品質劣のサイレージでも四五キロ給与し、三五・九キロ摂取しました。体重当たり乾物摂取割合は一・〇九パーセントとなりました。)

酪農・養豚経営安定推進資金 貸付要領について

中央会・営農共同対策部

七月二十五日、岡山県・県信連・県農業信用基金協会より、酪農・養豚経営安定推進資金特別融通助成事業について、農協を主体に融資取扱い関係機関への説明会が行われたので、その趣旨と貸付要領について概略を紹介いたします。

一、事業実施の背景等

本年去る三月末、五十五年度の畜産物政府価格（指定食肉安定価格、加工原料乳保証価格等）が決定の際、関連対策の一つとして酪農・養豚経営に低利資金を融通することが決定されたことにもついで実施されるものです。

酪農経営の場合、最近規模拡大等を行って借入金が多い農家においては、資金ぐりが困難であり、また飼料自給率の向上、牛群整備、更には肉牛生産の導入等経営体質の改善強化が困難となっており、養豚経営においては、豚肉生産の過剰から昨年八月末以降肉豚及び子豚価格の大幅な低落を招き、農協等からの借入金が増加しており、又最近規模拡大等を行って借入金が多い農家では、酪農経営と同様に、計画生産の推進により一層資金ぐりが困難をきたしています。

このような状況から、生産者の自主的な計画生産が円滑に推進され、経営の改善、合理化に役立てるための低利資金融資です。実施される融資枠は全国で酪農経営分については三〇〇億円、養豚経営分については一五〇億円となっています。

この枠に対し同融資希望額集計では酪農三二〇億円、養豚では四〇〇億とのことで、養豚では希望額が融資枠の二・六倍強の状況です。この融資を受けるための借入希望者の農協からの場合、各農協に定められた貸付要領に従って借入申し込みを行うことになっています。

二、資金貸付要領等

各農協で定める貸付要領については、県信連から次のような例が示されています。

酪農・養豚経営安定 推進資金貸付要領

一、目的

最近における生乳及び豚肉の生産は、消費の伸びを上回る過剰基調にあり、酪農経営及び養豚経営においては計画生産を行いつつ一段と生産の合理化等を進めることにより、経営の安定を図ることが肝要な課題となっている。

このため、酪農・養豚経営安定推進資金特別融通助成事業（昭和五十五年五月三十一日付五畜審A第三九九号農林水産事務次官通達）に基づき酪農経営及び養豚経営に必要な低利資金を融通することにより、酪農経営の安定に資することを目的とする。

二、資金の種類

(一) 酪農経営安定推進資金（以下「酪農安定資金」という。）
(二) 養豚経営安定推進資金（以下「養豚安定資金」という。）

三、資金使途

既借入金の返済及び酪農・養豚経営の安定・改善に必要な直接経費とする。

四、貸付対象者

酪農安定資金にあつては、原則として酪農振興法に基づき市町村酪農近代化計画の認定を受ける市町村の区域内において乳用成雌牛を飼養し、かつ、酪農経営改善計画を作成した者で、養豚安定資金にあつては、知事が養豚の振興を図ることが適当と認める地域において養豚経営を行い、かつ、養豚経営改善計画を作成した者で、それぞれ次に掲げる個人及び法人とする。

- (一) 農業を営む個人
- (二) 農事組合法人
- (三) 農業を主たる業務とする法人であつて、次に該当するもの。
- ① 合名会社及び合資会社にあつては、農業業者がその法人の社員（業務執行権を有しない者を除く。）の過半を占めているもの。
- ② 有限会社にあつては、農業業者がその法人の議決権の過半数を有しているもの。
- ③ 株式会社にあつては、農業業者が

その法人の発行済株式の総数の過半数に相当する株主となっているもの。

五、貸付の対象となる家畜及び借入金

(一) 酪農安定資金にあつては、搾乳を目的として飼養されている繁殖供用可能な、おおむね一六ヶ月令以上の乳用成雌牛とする。

(二) 養豚安定資金にあつては、繁殖豚はおおむね六ヶ月令以上の子とり用雌豚、肥育豚はおおむね三〇kg以上のものとする。

(三) 借入金は制度資金以外のものとする。

六、貸付条件

- (一) 貸付条件
 - ① 酪農安定資金の一貸付対象者に対する貸付額は、借入申込時における五の(一)の乳用成雌牛の飼養頭数に一頭当り一五万円を乗じて得た額の範囲内とする。ただし、酪農経営改善計画が専ら負債軽減に関するものであつては、一頭当り基準額を乗じて得た額と第五の(三)に定める農協等における借入金残高のいずれか低い額は一十万円とする。
- (二) 貸付方法 証書貸付
- (三) 貸付利率 年五・〇%以内とする。
- (四) 貸付期間 五年
- (五) 償還方法 毎年元金均等償還とする。（ただし、

酪農安定資金にあつては一年の据置期間を設定する。）

(六) 保証及び担保
実態に応じ徴する。なお、必要により農業信用基金協会の保証に付するものとする。

七、貸付取扱期間

- (一) 借入申込期限 昭和五十五年 九月十六日
 - (二) 貸付実行日 昭和五十五年 十月二十七日
- 以上の要領例となつていますが、なお借入れ申込みに必要な書類、貸付実行に要する書類等は各々の農協と相談され、この資金が有効に活用されることを望むものであります。



経済連便り

※和牛婦人グループ活動

経済連津山主管支所主催の和牛婦人グループ研修会が盛大に開催され、八〇年代の和牛繁殖経営の担い手として熱心に研修された。

- 六月二十六日 津山会場 二〇〇名
 - 八月一日 久世会場 一一〇名
- ※和牛育種組合現地検討会開催される。

全国和牛登録協会主催の和牛育種組合現地検討会が次によって盛大に開催された。今回は将来の育種組合をめざす津山地区和牛改良推進組合からも基礎牛とその産十六頭の展示研究がされた。

なお優良種雄牛高庭号の育種登録昇格のための繁殖成績調査も併せ行なわれた。内容は次の通り。

- 育種組合現地検討会
 - 新見会場 三五頭
 - 久世会場 二五頭
 - 基礎牛展示
 - 久世会場 親子 六頭
 - 高庭号の繁殖成績調査
 - 新見会場 五頭
 - 久世会場 二〇頭

※九月子牛家畜市場成績

※九月子豚せり市
九月五日
入場三五五頭 二二、二九三元
輸入豚肉の値上りと、消費促進がかなり進んだのを反映し、子豚市場は持合市況が続いている。

- 九月一日久世市場
入場二二六頭
平均 四一一、三二八円
めす平均価格 四五五、七〇四円
ぬき 三二三、三二〇円
- 九月二―三日津山市場
入場三九〇頭
めす 四六三、三二六円
ぬき 三六五、三二〇円
平均 四一三、〇六二円

今回の子牛せり市場久世、津山、の状況は四八年の九月の総平均を上回るもので史上最高となった。原因は和牛の需要増にもよるが、全国的に購買県からの岡山牛の良さが見直されたものと思われる。

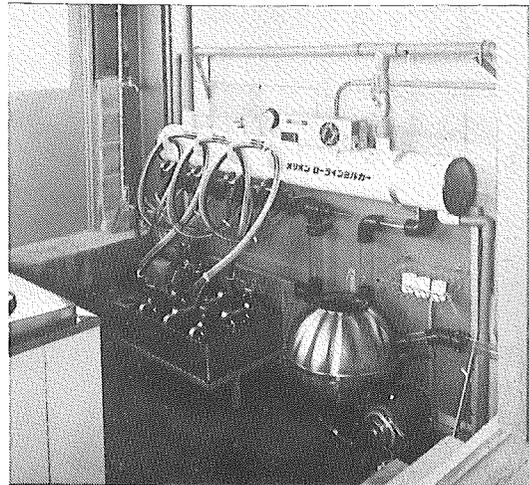
オリオン ローラインミルクカー

ORION

ローラインだけが成しえる低真空圧搾乳

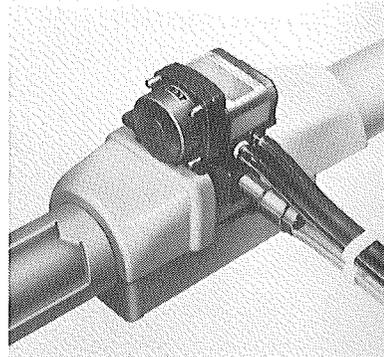
PML-51S-A型
三大特長

1. 安全な搾乳真空圧 31.5cmHg
2. 安定した搾乳真空圧
3. 二重構造のワンラインパイプ方式 (特許出願中)



◀処理パネル

▼ミルクタップ



オリオン機械株式会社

営業本部 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目25-5 TEL (03) 341-5811
 本社・工場 長野県須坂市大字幸高246 TEL (02624)5-1230
 岡山営業所 岡山市清輝橋3-2-8 TEL (0862)26-0136

酪農畜産機器 総合商社



株式会社

小 六

本社 岡山市福成2-14-23 (0862) 63-1221(代)
 落合営業所 真庭郡落合町上市瀬165-2 (08675) 2-3364
 金川営業所 御津郡御津町金川337 (08672) 4-0143
 津山営業所 津山市志戸部712 (08682) 2-1561

ご注文は 岡山県畜産会へ

●正しい飼料給与に日本飼養標準を

| | |
|-----------|-------------|
| 乳牛編 | (600円千160円) |
| 肉用牛編 | (800円千180円) |
| 豚編 | (630円千120円) |
| 家禽編 | (450円千120円) |
| 日本標準飼料成分表 | (850円千180円) |

●畜産技術・経営のめやすに畜産経営計画・設計指標シリーズのご利用を

| | |
|---------------|---------------|
| 草地型酪農経営 | (1,300円千300円) |
| 耕地型酪農経営 | (1,100円千200円) |
| 流通飼料依存型酪農経営 | (1,500円千200円) |
| 乳用去勢牛哺育・育成経営 | (1,000円千200円) |
| 乳用去勢牛肥育経営 | (1,000円千200円) |
| 肉専用牛繁殖経営 | (1,000円千200円) |
| 肉専用牛肥育経営 | (1,300円千200円) |
| 養豚繁殖専門経営 | (1,000円千200円) |
| 養豚肥育専門経営 | (1,300円千200円) |
| 養豚一貫経営 | (1,500円千200円) |
| 養鶏採卵専門経営 | (1,000円千200円) |
| 養鶏育成専門・採卵一貫経営 | (1,600円千200円) |
| 養鶏ブロイラー経営 | (1,300円千200円) |

●畜舎シリーズ (設計図つき)

| | |
|--------------------------------|-------------|
| 乳用牛舎 (50頭規模) | 1,500円千200円 |
| 肉用牛舎 (150頭規模) | 1,300円千160円 |
| 鶏舎 (2万羽規模採卵および2万羽出荷ウインドレス肉用鶏舎) | 1,500円千200円 |
| 豚舎 (100頭規模) | 1,700円千240円 |

●家畜排せつ物の処理・利用の手引き (1,000円千200円)

《最新刊》

- 粗飼料生産の新技术
●飯田克美著 (1,300円千160円)
- 養豚の経営管理 (1,200円千160円)
- 家畜害虫 (2,000円千200円)
- 畜産における土地利用の展開 (1,200円千160円)
- 昭和55年 畜産経営の動向 (2,500円千200円)
- 効率的な養豚技術 (1,300円千200円)

岡山県畜産会：700 岡山市磨屋町9-18 農業会館内 TEL 0862-22-8575

岡山畜産便り (九月号)
 第三巻 第八号 (通巻第三二〇号)
 昭和五十五年九月二十五日
 発行所 岡山市磨屋町九一八
 編集人 竹尾 省 宏治
 岡山県農業会館内
 岡山県畜産会
 電話・岡山 〇八五七五番
 振替・岡山 八五七五番
 岡山市丸の内二一一
 印刷所 ふじや高速印刷所
 電話・岡山 〇四九五一番
 定価 一部一八〇円 (送料共)

あ と が き
 今月は、牧場建設最終年度を迎え、いよいよこれから本格的な牧場経営が始まるうとして、北海道と岡山を結ぶパイプ役として、種畜の供給、肥育兼牛の供給等その役割は大きく、またそれだけに、県下の畜産農家の牧野牧場に対する期待は並々ならぬものがあります。牧場の皆様のご活躍をお祈りいたします。
 また、酪試の小沢さんより、興味深い文献紹介をいただきました。酪農家の皆さんはぜひ一読ください。